

1) キャプション

1) 目的

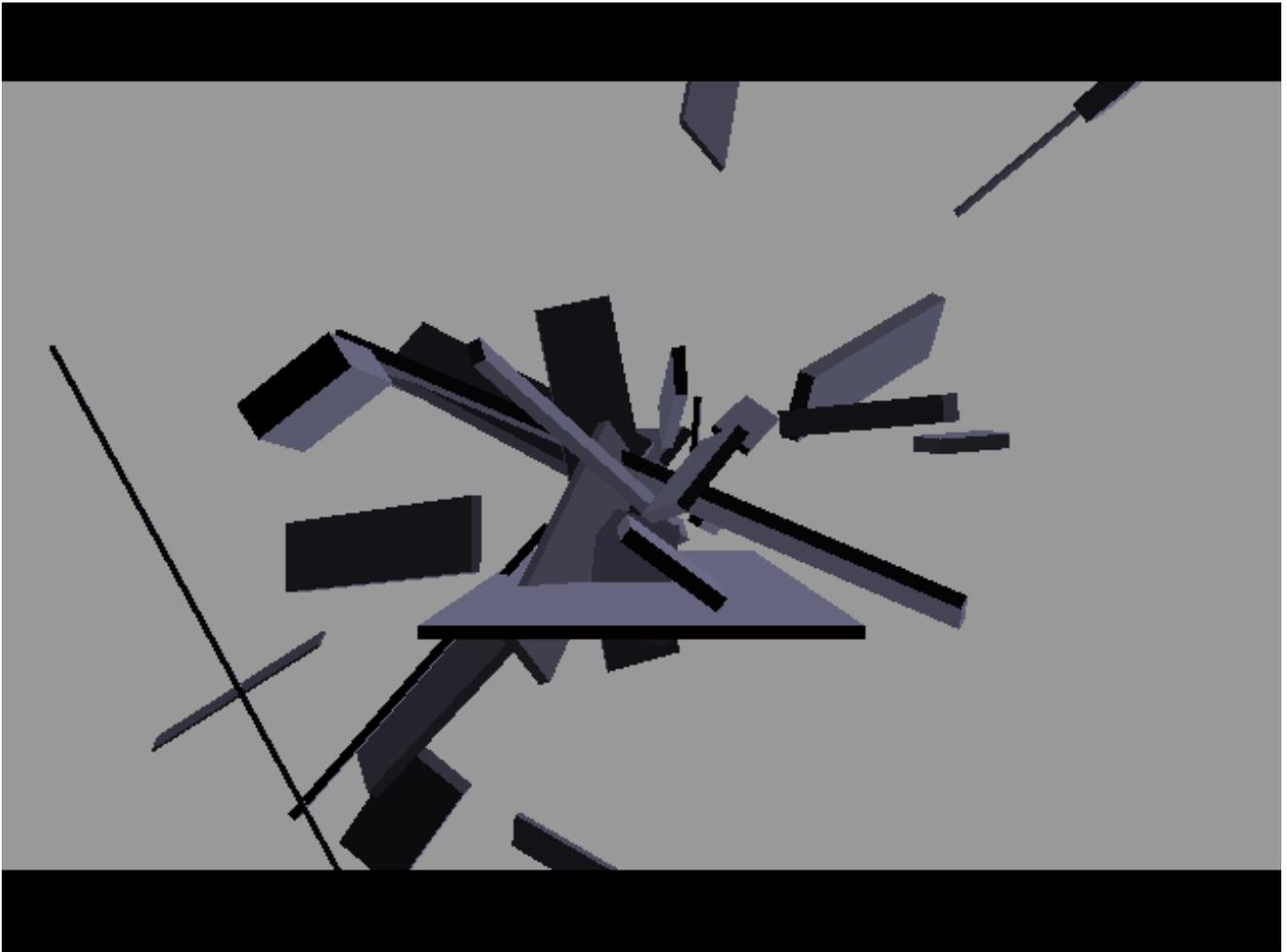
哲学者ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインが設計に携わり、ウィーンに 1928 年に建設されたストーンボロー邸に関しては、ベルンハルト・ライトナーによる 1976 年から始まる継続的な研究^{*1)}を始めとして、ギュンター・ゲバウアー等のグループによる実測調査の記録^{*2)}、パウル・ヴェイデフルトによる設計プロセスの分析、すなわち建築家エンゲルマンや当時の設計プロセスにかかわる周辺の状況に関する研究^{*3)}の成果が充実してい

る。

本論では、ホールを中心とした部屋の配置、それらの関係のあり方に関して考察をおこなう。

2) 設計プロセス

ストーンボロー邸はヴィトゲンシュタインの姉、マルガレーテ・ストーンボローの依頼によってエンゲルマンが設計を開始、後にヴィトゲンシュタインが加わり、二人の共同作業によって最終的な設計図が完成し、建築工事の



実施がおこなわれた。

ヴェイデフルトはエンゲルマンのプランおよび外観スケッチを10段階に分けて時系列的な分析をおこなっている。そこでは、きわめて古典的でシンメトリカルなH型平面形状を持つ最初期のプランから始まり、テラスをいくつかの部屋が取り囲む平面形式への変更、階段を中央においたホールが離れた位置にエレメントとして登場し、しかしついにはこの二者が一体化して中心部分をなす最終案が形成されていくプロセス、一方で明らか

にエンゲルマンによって当初描かれていた古典主義的な装飾が剥ぎ取られ、縦長の垂直性を意識した窓のエレベーションが整えられ、ロース風の外観における立体構成が同時に進行していく様子が記述されている。

